



栄光の未来

R5.9.22
第12号

生徒の手で、見事に創り上げた！

晴天のもと14日(木)に実施した東翔祭では、多くの生徒が晩夏の日射しをもともせず、競技に、応援に、精一杯の力で取り組む姿に胸が熱くなりました。また、教職員が前に出る場面がほとんどなく、まさに「生徒主体」の東翔祭を生徒自身が創り上げてくれました。

競技や応援の姿はもちろん、開会式での伊藤副実行委員長の「東翔祭を通してよりよい学校をつくる」、閉会式での三日月実行委員長の「勝ち負けを超えて、みんなが楽しむことができた」という言葉に、生徒がこの学校行事の本質をしっかりと捉えて活動できていたことを実感しました。さすが東石山中の生徒！

新型コロナウイルス感染症等により延期を余儀なくされ、平日開催となりましたが、当日は保護者・地域の方からも大勢ご来校いただき、生徒に熱い声援を送っていただきました。感謝申し上げます。

東翔祭の余韻がまだ残っていますが、学校生活は日常に戻り、次に向けて歩み始めています。今回の東翔祭で身に付けた力が日々の学校生活に生かされることを期待しています。



今年度は、赤チームが総合優勝！



来校者は300名を大きく超えました！

今日も元気なあいさつの声が校内に響く！

東石山中の三本柱にもある「あいさつ」のうち、朝の会での「おはようございます」や帰りの会での「さようなら」、授業での「お願いします」「ありがとうございました」のあいさつは、代表生徒の号令のもと、全員が一斉に行います。これらのあいさつは、いわば約束事のあいさつであり、活動の開始・終了のけじめをつける意味もあります。しっかりと取り組む生徒の皆さんの姿をよく目にします。

自分がそれ以上に素晴らしいと感じるのは、廊下をすれ違うときに元気な声で「おはようございます！」「こんにちは！」とあいさつができる生徒の姿です。号令のもとでのあいさつとは異なり、自発的に行うあいさつです。これこそが、東石山中の求めるあいさつではないかと考えます。



「あいさつ」と「笑顔」を届けてくれます！

家電メーカーの大手であるパナソニックホールディングスを一代で築き上げ、晩年には松下政経塾を立ち上げて政治家の育成にも尽力した松下幸之助さんの言葉を紹介します。



私たちの遠い祖先から伝わってきたこのあいさつというものは、いわばお互いの毎日の暮らしの潤滑油とでもいった、尊い働きを果たしているのである。

名言だと思います。コミュニケーションの第一歩は「あいさつ」から。このあいさつを、私たちの中でもお互いの潤滑油とし、安心と活力のある学校づくりに生かしていきましょう。